

2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	今井 信雄
論文執筆者名	宇井 堅登
論文の題 (テーマ)	認知症患者と社会との繋がりー認知症カフェを通じてー
簡単な内容 (概要)	<p>本研究は、学生本人が、認知症患者のための居場所である「認知症カフェ」でボランティアとして参加しながら、参与観察調査およびインタビュー調査を行い、認知症カフェの意義を社会的アプローチにより明らかにしたものである。学生本人の経験やインタビューを通して明らかになったのは、ピアサポートという概念だけに包含できない認知症カフェの多様な意義である。その一方で、先行研究や他事例との比較研究により、認知症および認知症カフェを取り巻く現状の困難さも指摘され、社会的な問題提起を行っている。</p>
推薦の理由	<p>本論文で評価できる点は第一に、その研究としての完成度の高さである。認知症を取り巻く社会的背景の考察、先行研究の十分な検討、学生みずからがボランティアスタッフとして参加した際にあった様々な出来事、スタッフへのインタビューなどを通して、「理論」と「実証」のバランスが非常に良い研究となっている。そして、学生自らが感じたことや戸惑いなども記述され、自らを相対化したうえで、社会的概念や分析方法を用いながら分析を進めていく本論文は、大学生が取り組む卒業論文としてきわめて高い水準にあると言える。</p> <p>本論文で評価できる第二の点は、認知症カフェでのやりとりを、社会的概念により意義づけたうえで、それを超える意味をも指摘していることである。これは、本学生が記述した認知症をめぐる現場のあり方を、現在の社会的アプローチが、十分に捉えきれていないことを示しており、本研究成果は、日本の社会学そのものにおいても非常に貴重なデータであると言える。</p> <p>本論文で評価できる第三の点は、本学生が実際の現場の人びとと人間関係を結び、「絶対また帰ってきてね、みんなずっと待ってるから」とまで言われるようになった経験である。卒業論文を通して、本学生がひとりの人間としても必要とされる存在となったこともまた、本卒業論文を高く評価できる点である。</p> <p>以上の理由により、本卒業論文をユニーク卒論として推薦する。</p>